

弥生：第24話「社会関係能力」の育成

児童への質問紙調査から、特徴的なことが2点わかりました。

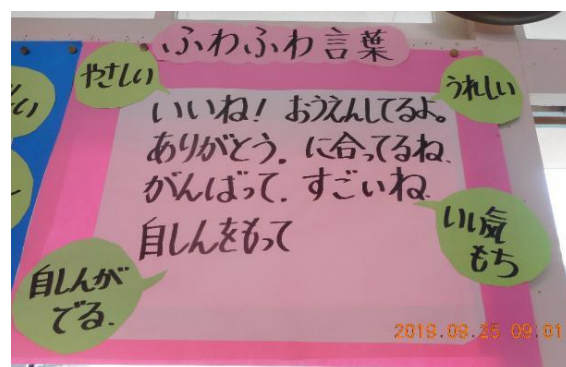
一つ目は、自分にそれほど自信が持てていないことです。アンケート調査では、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という問いに対して、54.7%（全国比+7.9%）の児童が、積極的に評価しているにもかかわらず、「自分にはよいところがあると思いますか」という問いに対して、とてもそう思うと回答した児童の割合は、43.8%（全国比-3.1%）で、全国平均を下回っていました。



そこで、お互いが認め合う関係を築くために、チクチク言葉をなくす取組について、児童会活動を通して児童に働きかけを行ったり、いじめアンケートの項目にも加えたりして、全校的に指導を行いました。また、学校行事のたびに、「自分が努力していること」「友だちががんばっていること」等を認め合う作文を書くことに取り組ましましたし、学級でも「きらりの木」や「よいところみつけ」などを行いながら、日々の行動の中に児童一人一人のよさを見つける活動を行ってきました。

また、右の写真のように、相手が安心したり、

元気を出したりできるように、「ふわふわ言葉（いいね！ありがとう、がんばって、すごいね、等）」を積極的につかう取組を行ってきました。これらの取組により、言葉をきっかけとした児童同士のトラブルが減少したように思います。



2つ目は、地域のことを深く考えている児童がそれほど多くないということです。「地域の行事に積極的に参加している」と自信をもって答えた児童が57.8%（全国比+16.8%）いるものの、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という問いに対して、自信をもって考えていると答えた児童は18.8%（全国比-2.7%）で、それほど高くはありませんでした。



今年度は、地域の方々の手厚い保護のもと、子どもたちは、運動会で「横浜おどり」「曳船」を披露したり、地域の祭りや行事に積極的に参加したり、生活科や総合的な学習の時間に地域に出かけて、ふるさとの「人、もの、こと」に関わる学習をしたりしました。今後は、体験活動や地域学習の初めから終わりまで、児童が絶えずゴールイメージ（学習や体験を通して、坂町の何を学ぶのか）をもちながら学ぶことが大切だと思いました。

4月からは、今年度の取組をふまえて、学校において、礼節を重んじ、自己肯定感を高める指導を行うことにより、自らへの自信をもたせ、仲間と協働しながら、さまざまなことに積極的に挑戦させることと、学校で学んだことを、校外学習や地域での生活に生かすことが出来るように指導し、地域、社会を良くするために何ができるのかを考え、行動できる児童を育てていきたいと思っています。